

「大変」なことは

副会長 的場 美友紀 (52期)

主な担当業務：広報、非弁提携、非弁取締、災害対策、倫理、業務改革、中小企業法律支援センター、国際、男女共同参画、公益通報、協同組合、活動領域、新進会員活動、等



2025年4月に副会長に就任してから、よく「大変ですね」「忙しいですね」と声をかけていただく。氣にかけていただけること自体がとてもありがたく、その言葉に多くの人に支えられていると感じる。確かに、副会長としての仕事は責任があり大変である。もっとも、それは弁護士としての業務も同じで、誰もがそれぞれに大変さや忙しさを抱えていると思うし、何が大変なのかをつらつらと考えている日々である。

最も難題なのは

副会長に就任してから（厳密には当選してから）、最も頭を悩ませているのは実は「日程調整」かもしれない。

理事者会、常議員会や担当している委員会等の会議や行事、さらに日本弁護士連合会、関東弁護士会連合会等の大会や関連行事、そしてもちろん本来業務の会議など多くの業務がある。定例の会議は年度の初めに予定を決めて一安心していると、その後も次々に予定が舞い込んでくる。そのたびに、手帳やPCのスケジューラーの画面をにらみながら、会議をオンラインにするか対面にするか、移動時間をどの程度見込むか、確定するまでの間候補日をどうもれなく押さえておくか…できれば、決裁業務をする時間なども見込んでおきたい…諸々の事情を考えつつ予定を順々に入れて日程を確定していくのは、まるでパズルを解いているようである。

最適解を探すパズル

パズルには完成形があるが、日程調整には完成形がない。同じピースを組み合わせても、その日の事情や

人の動きによって形が変わってしまう。誰かの予定が入れば別の候補日が消え、思わぬ空白ができたり、逆に予定がぎゅうぎゅうに詰まったりする。それでも、「この時間なら何とかなる」「ここなら集まれる」といった最適解を探す過程には、ちょっとしたゲームのような面白さもある。予定がびたりとかみあった瞬間は小さな達成感すらある。もちろん、予定を入れることは業務の基本であり、欠かせない責務である。だからこそ、重複や抜けがないように調整するときは真剣勝負の気分である。

手放せないもの

そのような日程調整との格闘の日々の中で、今まで以上に手帳が手放せなくなった。デジタルツールはもちろん便利でそれなりに活用していると思う。しかし予定を管理するには、ページをあちこちにめくりながら参照して確認できるし、紙に書き込むと頭の中に定着しやすい気がして、結局、アナログの手帳頼みになった。これからもまだ日程調整は続くので、もっとよい方法をご存知の方がいれば、ぜひ教えていただきたい。

よりよい変化を

ところで、「大変」という言葉は「大きく変化する」と書く。「大変」の本来の意味とは少し違うのかもしれないが、当会や会員の皆さまにとって、小さくてもよりよい変化をもたらすことができるように残りの期間も力を尽くしたい。そして、私自身も、副会長としての貴重な一年を忙しさの中にも丁寧に努めながら、よりよく変化していけるように過ごしたいと思う。